

2023年度グローバル・サービスマーケティング B 実施報告(ホームページ掲載)

科目名	グローバル・サービスマーケティング B 教員名 小関 隆志
実習先	フィリピン共和国 セブ島
実習期間	2024年2月24日(土)～2024年3月9日(土)
テーマ	フィリピンのスラム地区で貧困と向き合う

目的(実習のねらい):

グローバル・サービスマーケティング B は、フィリピン・セブ島においてボランティア活動を行う海外短期ボランティア実習です。実習中は現地の NGO の活動に加わり、貧困問題・教育・福祉・国際開発などアジア地域が抱える社会課題について取り組んでいただきます。

山村やセブ市内の墓地で暮らす家族や、ストリートチルドレンや孤児院で暮らす子どもたちとの交流を通して、アジアの現状を知り、彼らが抱える課題について考え、今後必要な支援や取り組みについて参加者同士で話し合い、アイデアを出し合って実践することが目的です。



セブ市郊外にある山村集落のひとつ、Mary Grace にて(2024.2.29)。セブ市内のスラム地区住民が政府によって山村に移住させられ、辺鄙な地での生活を余儀なくされている。

実習報告:

昨年に引き続き、セブ島とマクタン島で活動を行いました。

フィリピンは経済成長が著しい新興国で、セブ島に巨大なショッピングセンターが立ち並び、富裕層の暮らすコンドミニウムもあります。セブ島・マクタン島はリゾート地として名高く、日本人をはじめ多くの観光客が押し寄せますが、貧富の格差が激しく、貧しい住民はスラム地区で互いに肩を寄せ合って暮らしています。

昨年と同じく、マクタン島の海辺に位置する、少数部族が暮らすスラム地区（私たちは「海上スラム」と呼んでいます）で支援活動をしました。昨年の実習で学生が作った、家屋と家屋の間をつなぐ木の通路は、住民の生活にしっかり役立っていました。今年は、この海上スラムの中心にある教会（コミュニティのセンターとしての役割を果たしています）の床板を補強する作業を行いました。元の床に別の板を載せて、釘で打ち付けて固定し、きれいに色を塗りました。床板を打ち付けるだけで終わるのかと思いきや、床の中央部にフィリピンと日本の国旗、MEIJI UNIVERSITY の文字と、めいじろうのイラストまで描いて、大学の宣伝までして驚きました。

教会には、スラム地区の子どもたち（多くは小学生や未就学児）が放課後に集まってきます。学生は子どもたちとたくさん遊び、折り紙や紙の風車を一緒に作り、おやつを作って子どもたちに配りました。毎日のように海上スラムに通ううちに、学生は子どもたちとすっかり仲良くなりました。

海上スラムでの活動の様子



教会の床板に色を塗り、ついでに明治大学の名前も書いてしました（上）

子どもたちに日本語を教えています。「きのう」「きょう」「あした」はこの中のどれかな？

子どもたちからは、ビサヤ語（現地語）のあいさつ言葉を教えてもらいました。（左）

実習報告(続き):海上スラムが活動の中心でしたが、それ以外の活動も豊富にありました。

(1)マザーテレサ修道院(2月26日):セブ市内の最貧困地区にあり、修道院内の孤児院は親が養育できない小さな子ども(未就学児)を引き取って養育しています。学生は子どもの相手をして、ご飯を食べさせる体験をしました。また、修道院内の高齢者用の部屋には、近隣に住む高齢者(路上生活者を含む)が毎日通ってきて日中の時間を過ごし、昼食をもらっています。学生は高齢者と話をしたり、昼食を配ったりして交流しました。

(2)墓地スラム(2月27日):華僑の墓地に最貧困層の人々が住み着いている場所があり、そこを私たちは「墓地スラム」と呼んでいます。本来墓地は私有地ですが、長年にわたってスラムは黙認され、現在に至っています。ただ、そのうち墓地から追い出されて路頭に迷うかもしれないといった不安や焦りがぬぐえないのだそうです。学生は住民の「家」に訪問し、住民から暮らしぶりについてお話を聞きました。また、子どもたちと一緒に遊び、サンドイッチを提供しました。



(3)サントニーニョ大聖堂と Mary Grace(2月29日):サントニーニョは、セブ市中心部にある著名な大聖堂で多くの観光客が訪れる場所です。世界一周を成し遂げたマゼランが立ち寄ったことを記念する「マゼラン・クロス」や、隣接する博物館なども訪問しました。貧しい子どもたちは、大聖堂に来る観光客にキーホルダーなどのアクセサリーを売って家計の足しにしています。

セブ市内のスラム住民が、政府によってセブ市郊外の山村に強制移住させられましたが、Mary Graceはそうした山村の一つです。住民は辺鄙な場所から、市内に通学・通勤を余儀なくされています。最初のページに載せた写真は、そこに訪問した際の集合写真です。



マゼラン・クロスにて

実習報告(続き):

(4)Tejero Elementary School (3月4日): テヘロ小学校は、セブ市内にある小学校です。この小学校の近くのスラム地区が2023年12月に火事に遭い、多くの住民が焼け出されました。そのため、今回は小学校を訪問して、お米と、日本から持参した不用品を寄付することになりました。

セブ島に滞在中、あいにく小学校近くで再び火事があり、小学校が住民の避難所になったことから訪問予定日が5日ほど延期となりましたが、何とか訪問して寄付品を配ることができました。



(5)Inayawan Dumpsite (3月6日): セブ市内のごみ集積場です。ごみ山の中から物を拾って売り、生活する人々があり、「スカベンジャー」と呼ばれています。ごみ集積場の隣にスカベンジャーのコミュニティがあり、学生はそこを訪れて食品を寄付してきました。数年前、セブ市当局はこのごみ集積場を閉鎖したため、建設業やごみ収集業に転職するスカベンジャーも現れたそうです。



(6)マンゴー工場の見学(3月6日): セブ島の特産品はなんといってもマンゴーです。島で産出されるマンゴーの大半は海外への輸出品となります。この日はマンゴー工場を見学し、お土産もたくさん買いました。



実習報告(続き):

(7) ジンベエザメツアー (3月2日): 休日が2日間ありましたが、そのうちの1日はみんなでジンベエザメツアーに参加しました。これは、セブ島の南端にあるオスロブという場所で餌付けされているジンベエザメと一緒に泳ぐアトラクションで、セブ島観光の中で断トツの人気を誇っています。海水の透明度が高く、砂浜が美しいことでも知られています。ボートで海を渡り、エメラルドグリーンに囲まれたスミロン島にも行きました。 身も心もリフレッシュできました！



学生の実習を企画運営した CEC ジャパンネットワーク <https://www.cecj.net/>、現地の受け入れ団体の NGO、Strategic Livelihood Projects Cebu (SLPC) [https://go-cebu.com/english/index.html#:~:text=Strategic%20Livelihood%20Projects%20Cebu%20\(SLPC,the%20children%20in%20these%20communities.](https://go-cebu.com/english/index.html#:~:text=Strategic%20Livelihood%20Projects%20Cebu%20(SLPC,the%20children%20in%20these%20communities.) とそのコーディネーター、バディには大変お世話になりました。

専任教授 小関 隆志